



発行 KOA 森林塾 (事務局) 0265-70-7065 編集 坂野慎治 題字 島崎洋路

通年コース第六・七回開催報告 「間伐」

『伐って・・・伐って、伐って』

六十年生時、相対幹距比二十%。島崎先生が提唱された保残木マーク法は、植えられた木が六十歳になった時、何本がどのような間隔で残っているかを想定して、今の手入れをするという、画期的な方法です。

今回のヒノキ林は現在およそ三十五歳、上層樹高が十三メートルくらいでしたので、二十五年後、六十歳の時の樹高は十七、二十一メートル、この時点の相対幹距比を二十%にすると・・・。今、抜き伐りしなくてはな

らないのは、二十五年後まで残す保残木の生長を現在邪魔しているもの。ということは最後まで残らないだろうが、今は伐る必要がない木、という微妙な範疇に属する木も出てくることになります。この方法の特性です。ですの

ておいた方がいいのはいままでありません。やはり山の手入れは継続して行なうこと、少なくともそういつた意識を持つて手入れをするこ

とが大切です。 前回の伐木造材で伐倒の練習が出来ず、いきなり本番となりましてが、受け口・つる・追い口はもちろん、伐倒方向の選定や退避路の確保など間伐に関する基本を理解して頂けたでしょうか。



形状比の復習



それでは一曲



水平と斜めを連続で伐る



六十年生時の保残木

今回の内容

通年コース 第六・七回

8月24日(金)

間伐

8時30分

島崎先生の山小屋に集合。 日程説明の後、島崎先生の林業の現況や後継者問題についてのお話。

8時45分

班分けをして、分乗で現場へ向かう。

9時40分

新山の美篤区有林着

9時55分

プロット調査開始 生立本数を数え、イントラの伐倒した木の長さを計測。 切り株で年輪を数える。

11時

信州伊那といえど暑かった二日間の山仕事、お疲れ様でした。

島崎先生による保残木マーク法講義。現状の地位指数から六十年生時の上層樹高を予想し、相対幹距比を二十%とすると・・・。

選定した保残木に対し、伐る木は保残木の生長を阻害している木。保残木でもなく、伐る木でもなく、現在のところ保残木の生長に影響のない木は伐らなくてもよい、この方法を発案した経緯や列状間伐、釣竿利用の調査法なども講義して頂く。

11時40分

保残木をマーキング。通直性・太さなどを勘案しながら。

12時5分

昼食。

13時

伐倒手順を切り株で。受け口・つる・追い口をしっかりと



受け口と追い口と・・・

りと。そしていよいよ伐倒。樹の傾きや枝張りから伐倒方向を決め、退避路を確保。立ち位置を決めて受け口水平から受け口斜めと伐り進む。受け口方向と周辺を確認して、いざ追い口。

16時
作業を終了し、小屋へ。

16時55分
小屋着後、一応解散。暑気払いの準備にかかる。

18時25分
暑気払い開始。暑い日の山作業の後でビールがどんどん空に。ハーモニカの調べや雪山賛歌のアカペラとともに夜が更けてゆく。

8月25日(土)
間伐

8時30分
島崎先生の山小屋に集合。日程説明の後、早速分乗で現場へ向かう。

9時15分
現場着。機材を準備して間伐開始。込み合ったヒノキ林での伐倒は牽引が必要なものも。ロープやあるいはチルホールを使って間伐を進めてゆく。

12時5分
昼食。

13時
間伐再開。枝払いはできるだけ梢に向かって材の左



ロープ牽引段取り

側で、チェーンソーをその都度持ち替えながら、一本一本幹を抉るくらいに。造材は、山側に立ち、橋渡しになっているかどうか、材の状態を良く見て伐り方を決め、伐り進んでいくあいだも伐り口の状況に応じて。初日に設定したプロット内での間伐を終え、次のプロットを設定して間伐を進める。

15時
作業を終了し、機材を片付けて小屋へ。

16時
小屋着後、島崎先生から講評。次回連絡をして終了。解散。お疲れ様でした。

参加者/秋田さん、今井(健)さん、今井(杉)さん、神田さん、工藤さん、小淵さん、佐藤さん、田村さん、中野さん、東村さん、平野さん、水野さん、熊木さん、園田さん

講師/島崎先生、早川講師
スタッフ/大野、川島、藤原、平林、坂野



次回以降の予定

第八・九回
9月14・15日(金・土)
伐出

伐って出し。伐るは間伐。出すは、「ひっぱりだこ」というウインチで、「キヤタラ」という林内作業車で、材を寄せ、集め、運ぶ。それぞれの機械の特徴をつかみ、集材を考慮した伐倒にも挑戦して頂ければと思っています。

初日は、間伐をした山でひっぱりだこ集材を、二日目に小屋近くの林で、キヤタラ集材と伐倒を行う予定です。

二日間ともに、8時30分、島崎先生の山小屋に集合です。

専門コース 第三回
10月4・6日(木・土)

早いもので、専門コースは今年度最後の開催となります。初日に復習をして、より安全・確実な伐倒、丁寧な枝払い、重心を見極めた造材を。傾斜地での伐倒にも挑戦してみましょ。

三日間とも、8時30分、島崎先生の山小屋に集合です。

リレー通信

「森に学ぶ」
小淵 益男



私立幼稚園経営に携わっているため、こどもたちを取り巻く社会や自然環境があまりよいとはいえないことを実感しています(治安面ではありません)。園内に樹齢三百年以上のアベマキの大木(幹回り四m、丁市の名木百選に指定)があるので、夏になるとクワガタ、カブトムシなどが蜜を求めて集まってきました。しかしながら当然スズメバチも飛んできますから、保護者が八手を見つけると、「危ないから駆除して!」と言います。クワガタがいるのに殺虫剤を使うわけにもいかず、仕方なく蜜が出てくる幹をトタンで覆っています。どこかおかしいと思いませんか。昔ながら首をかしげるようなことが

当たり前のようになってきた。一応経営者ですが、事務・用務・作業と人件費節約のため何でもやります。数千坪の園庭には、昔は百本以上のアカマツ、クロマツがありましたが十数年ですべて枯れてしまいました。枯れた太いマツは業者に伐ってもらいましたが、ほとんどのマツは自らチェーンソーで伐りました。しかし、チェーンソーの操作法はまったくの我流というカタラメで、ツルを残すことすら知らずよく無事でいられたと、後から考えれば冷や汗ものです。数年前、私学共済組合の退職教員向けの本を読んで、森林インストラクターのを知り、早速森林インストラクター講習を受講しました。内容は面白かったのですが、肝心の樹木がほとんどわからず樹木図鑑などを揃えましたがやはり難しいです。その後、グリーン

セイバー検定試験のことを知り、ここでもすぐにセミナーへ申し込みそして検定も受けました。昨年はT市の森林ボランティア講習を受講しチェーンソーの使い方を練習しましたが、それまで我流で使っていたため指導されるとどうしてもギコチナクなってしまう。やはり森の仕事の基本から学びたかったので、ネットでKOA森林塾を見つけ、申し込んだ次第です。私は、あるときからにわかには興味を持ったわけではなく、父親が昔営林署で仕事をしていたことがあり、子供の頃父親から営林署や山での生活の話を聞いていたため子供のころから森に対してなんとなく憧れを抱いてきたようです。そんなこんなで森への興味は増幅していったわけで今回の森林塾受講につながりました。

私は、一応教育関係の仕事をしていて、ため、こどもたちやその親さんの姿を長年見続けてきました。昔も今もこどもたちには変わりに親さんが大きく変わってきた

のはなぜなのか疑問に思い、その上、当の親さんと話をする機会もあるため、様々なところへ行き見聞きしてました。あるとき哲学専攻の内山節さんの『子どもたちの時間（山村から教育をみる）』を読んで、はじめて納得できる文章に出会いました。内山さんの『森にかよう道』に、「今日の日本の精神風土が、「進歩」を正常なもののみならずかたちでつくられている以上、永遠にくり返されるような労働や暮らしを支える精神的な土壌が、生まれてこなかったのである。そのことが、農林業に従事する青年たちの精神を圧迫し、後継者の少なくなった村では、農地の荒廃と手入れ不足の森林が増えていくことになる。」と、書かれています。

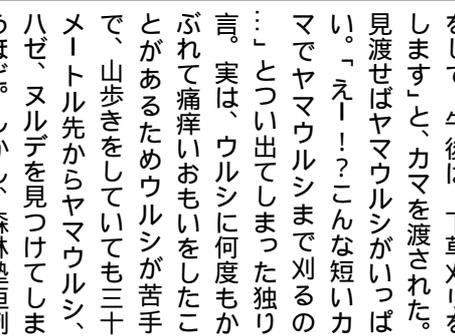
最近では社会学系の学会に関わり、学会を通して子供問題と私たち知り合う機会ができました。『森と健康』という本に、精神遅滞と自閉症の障害者を森に連れて行き、森林で療育するとそれなりの効果があるという書がありました。臨床心理学をかじったことのあるので、障害者（児）と森の関係に興味を持っていました。そんなこともあり、森林総合研究所の宮崎良文さん（現千葉大教授。浜田久美子さんの『木の家三昧』にも登場）

場）たちの森林浴や森林セラピーにも大いに関心を持っていたところへ週刊誌『YERA』07・6・4の記事「森林セラピー事業の奇怪。これは官製詐欺ではないのか」という内容です。この記事を書いた長谷川照さんは元朝日新聞の農政記者で、昔の新聞記者らしく非常に細かく調べています。長谷川さんが書いたように森林セラピーをめぐる不正があるのか、あるいは独断と偏見に満ちた記事なのか分かりませんが、私自身森は好きだし、森に入ればこころが軽くなることは確かですが、都会のほうに気持ちよい人もいるかもしれない。なんとか療法などと称して健康や癒しを謳い、森を都合よく使ったおかしな話が出てくるのはイヤです。物事を短絡的に因果的思考法で考えてはいけなさと反省しています。

をして、午後は「下草刈りをする」と、カマを渡された。見渡せばヤマウルシがいっぱい。「えー！？こんな短いカマでヤマウルシまで刈るの...」とつい出てしまった独り言。実は、ウルシに何度かかぶれて痛痒いおもいをしたことがあるためウルシが苦手な、山歩きをしていても三十分メートル先からヤマウルシ、ハゼ、ヌルデを見つけてしまうほど。しかし、森林塾恒例の下草刈りが始まればそんなことはいつとおれず、エイヤーと、辺りかまわず刈まくっているうちウルシの存在がそんなに気にならなくなってきたのです。しかし、「コアジサイも刈ってしまった...」。森林塾からの帰り、中央道を車で走っているときの気持ちはなんと表現できないくらいほんとに晴々とした気持ちになっていました。これまでいろいろなところへ行き、あるいは山歩きをしてもこころで晴れやかな気持ちになった記憶がありません。ということは、森林塾と相性が合い、そして、森林塾スタッフの皆さんのお人柄と森林塾の参加者もそうですが塾全体の雰囲気がいよいよいいことだと思えます。次回のことを考えながらワクワクし、出来ればきりになりたいな〜と思っている今日この頃です。



先日の森林塾。午前中植林



リレー通信

未知への挑戦
佐藤 哲男

皆さん今日は。私は埼玉の越谷市という所から通っています。佐藤と言います。今回リレー通信ということで、何か書いてもらえないかと通知が来ました。これは青天の霹靂です。文章を書くのは、この方十数年以上書いたことがなく、恥は沢山カイトきたので仕方なく恥を書くことにします。

第一回目の時に皆さんの自己紹介がありました。その時の話を聞いた時は、皆さんはシツカリと目標を持ち、将来の心構えができていて、感心しました。私の余りにも安易な考えで入塾した事が、恥ずかしかつたことを覚えています。私の入塾のきっかけは、今年の三月に四十数年間勤めた仕事を定年退職しました。これから先はどう人生を過ごすのか、ただ漠然と考えていた訳です。周りでは好きな趣味とか、ボランティアに参



加すれば等、勝手なことを言っていました。そんな時同僚達が、送別会を催してくれました。雑談の中で後輩の一人が、昨年 K O A 森林塾に入り、スッカリハマッテしまし、今年も継続し内容を充実させ、将来は山師(?)に生ると張り切っていました。その時にフト、頭の隅の方で子供の頃の情景が少し刺激を受けたのです。

それは私が三歳か四歳の頃、旧満州国奉天市から引き揚げてきました。そして東京都足立区で過ごすことになったのです。その頃の足立区は、まだ都市化されてなく、田んぼ、畑など農業が盛んな時代だったと記憶しています。ですから自然がまだ沢山残され、それぞれの四季を通じて遊んだことを覚えていません。特に夏の時期は思い出が沢山ありました。夏休みは朝

から晩まで一日中遊び、昆虫類も沢山獲った記憶があります。蝶々は、クロアゲハ・キアゲハ・アオスジアゲハなど、特にトンボは魅力がありました。ギンヤ

ンマ・シオカラトンボ・ムギワラトンボ等、それと蝉です。クマゼミ・アブラゼミ・ミンミンゼミ・ツクツクボウシ等を探り、標本を作った事もありました。勿論小川もあり、ヨツデという網で、コイ・フナ・クチボソ・メダカ等を獲りバケツの中で育てたりしました。周辺には池も沢山あり釣りや泳いだりもしました。通学の途中には、トマト・キウリ・マクワウリ・スイカ等が植えられ、黙って食べたりもしました。時には農家の方に怒られたりもしました。こうした環境で子供の頃を過ごした経緯があります。

す。たまに職場の仲間達と旅行に行きましたが、それは唯一の観光旅行で自然を満喫した訳ではなかったのです。その後は現在のところ二十数年になり今日に至ったわけです。

越谷市も周りはすっかり都市化されて自然環境が段々と少なくなってきました。数年前にセミが大発生した時がありました。セミは土の中で二年から五年は過し、やっと地上で羽化しても留まる樹木も少ないのが、大半は熱い道路の上で羽をバタバタしてたり、既に車で轢かれてペシャリ、既に潰されたりしていた光景がありました。その時はフト子供の頃を思い出して、まだ生きているセミを樹木のあるところまで持っていく、留まらせたりしました。中にはもう弱って木に止まることができず、そのままに落ちて動かなくなったものもありました。その年は約四十数匹位手助けをしたと思います。でも夏になると今でもセミを見つければ、こうした行為は続いています。

しています。第二の故郷のような気がしてききました。それは毎月一回伊那市に行けるといふ喜びを感じていることと、子供の頃の自然に対する憧れが、想像以上に体験出来たからです。それと日常の煩わしさ・ストレスからも開放され、時間もゆつたりと流れ、自分を見つめ直すことが出来るからです。これらの数年間、団塊世代の皆さんは大勢定年退職されると思いますが、退職後どう人生を過ごすのか考えている方、一度この K O A 森林塾に入っ

て、いろいろ体験しては如何でしょうか。これから、未知の世界を覗くことが出来、人生の生きがいになるかも知れません。それよりもっと嬉しかったことは、素晴らしい仲間に出会ったことです。今回の同期の入塾者は、世代も老(?)から若者までおり、何時も老をいたわり、助けてくれます。第一回目から親切にして頂き、毎回活動のエネルギーとなつていきます。そして、講師の先生方の人柄と、わかり易い解説の講義に感謝し、いつも有意義な時を過ごします。本当にありがとございます。これからも最後まで参加できるように、カンバリますので今後ともよろしくお願いたします。徒然なるままに……。

樹のコラム

エゴの木と白雲木

どちらもエゴの木科で落葉小高木、五月から六月に合弁の白い花を咲かせます。花の形がとも似ていますが花の付き方が違います。エゴノキは枝先に一〜六個ぶら下がるように付きますが、白雲木は枝先に藤のような総状花序を出して咲きます。それから香りが無く、白雲木はほとんど香りがありません。茶花として使われています。

葉はどちらも互生。エゴノキは葉縁に浅い鋸歯があるが全縁で、大きさは長さ四〜八cm・幅二〜四cmで見なれてくると、これはエゴノキとわかるような葉っぱです。一方白雲木の葉は長さ十〜二十cm・幅六〜二十cmと大きく、



葉縁に歯牙状の鋸歯があり、葉の裏には毛があります。触るとあさがおの葉っぱを触った時のような感じがします。

エゴノキの果皮にはエゴサポニンと言う成分が含まれ、若い果実をすりつぶして川魚をとったり、実を石鹸のかわりにしたそうです。種はヤマガラノ好物だそうです。どちらの果実も球形で特徴的なのでわかりやすいです。

エゴノキの材は白く均質で玩具・床柱、杖、ロク口細工に。白雲木は器具材、くり物・将棋の駒、ロク口細工に。そよ風に揺れる花の姿は優美で、ずっと眺めていてもあきないです。

おわりに

伊那では暑さも漸く和らいできそうですが、雨が少なく、秋の収穫が心配な今日この頃です。

「鷹」

投稿大歓迎。ご意見、ご質問、ご要望、事務局まで。

TEL 0265-70-7065
FAX 0265-70-7994



E-mail:
sh-sakano@koanet.co.jp
ki-hayakawa@koanet.co.jp
携帯:090-4463-0062(開催日)
URL http://www.koanet.co.jp